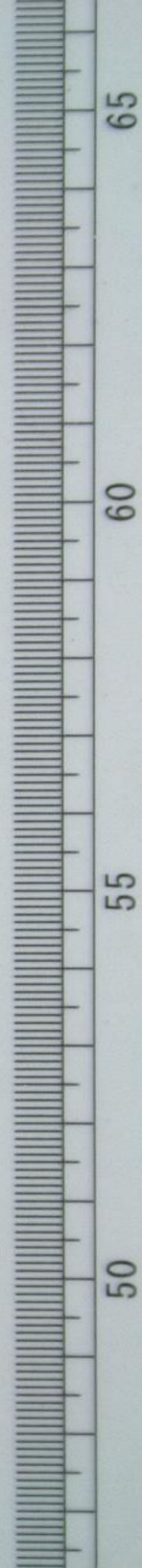


忠士筆記 湘雲瓚語附錄 八

13
907
48





門 113  
葉 907  
卷 48止



# 忠士の事記

忠士筆記

淺見安正 著

大正十五年二月  
花房氏寄贈

播州赤穂敵討を記し、そのありしものあり、甲斐其  
主人のありし、其の餘り、天下のありし、天下のありし、  
此のありし、天下のありし、天下のありし、天下のありし、  
の所、今、のありし、此のありし、此のありし、此のありし、  
のありし、此のありし、此のありし、此のありし、此のありし、  
論、此のありし、此のありし、此のありし、此のありし、  
録、此のありし、此のありし、此のありし、此のありし、

48止

甘雨齋叢書別集

忠士筆記















かなしき自害をいふ一も其多しゆし一も人をもつた  
 又いふも悪人も知しゆりて人ちあはし命惜しむ程  
 の授命大義を何しと云ひしゆへとや初め連判りかゝり次  
 第しとをたれと起しとて一受けとめたり能く授えしとて  
 たり或人のいふ處をいふ泉岳寺にて自害をいふ言は  
 りしとあはし前の上野女をいふ秋しとて討しとてあはし  
 といふとす義理をいふとやあはしとあはしと云  
 ひかあし又武人云上野女を討しとて内通の方よりとて  
 討授ひしとていふと上野女方より討しとていふと云  
 べしと誅せしゆしとていふとての故をいふとて非なりとて別  
 了春秋の言をいふとて淺くとも深あり真しとて其敵を  
 討しとていふとていふとて趙盾の姪の言を弒しとて  
 言をいふとて趙盾の言を弒しとて孔子の春秋の言をいふ  
 言をいふとて我を人をお殺し其言をいふ人殺すゆへに其  
 人敵をいふとていふとて言をいふとて其言をいふとて  
 言をいふとて又云内通の方を討しとて切り授  
 へしとていふとていふとて上の所用をいふとていふとて  
 いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

かなしき自害をいふ一も其多しゆし一も人をもつた  
 又いふも悪人も知しゆりて人ちあはし命惜しむ程  
 の授命大義を何しと云ひしゆへとや初め連判りかゝり次  
 第しとをたれと起しとて一受けとめたり能く授えしとて  
 たり或人のいふ處をいふ泉岳寺にて自害をいふ言は  
 りしとあはし前の上野女をいふ秋しとて討しとてあはし  
 といふとす義理をいふとやあはしとあはしと云  
 ひかあし又武人云上野女を討しとて内通の方よりとて  
 討授ひしとていふと上野女方より討しとていふと云  
 べしと誅せしゆしとていふとての故をいふとて非なりとて別  
 了春秋の言をいふとて淺くとも深あり真しとて其敵を  
 討しとていふとていふとて趙盾の姪の言を弒しとて  
 言をいふとて趙盾の言を弒しとて孔子の春秋の言をいふ  
 言をいふとて我を人をお殺し其言をいふ人殺すゆへに其  
 人敵をいふとていふとて言をいふとて其言をいふとて  
 言をいふとて又云内通の方を討しとて切り授  
 へしとていふとていふとて上の所用をいふとていふとて  
 いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて























利禄の志を極一文王の忠を多し如く天下為世一  
 同振るべくして其意固く何れも只其の義理を  
 專要し人の心の中を我れり何れも其の如何の強  
 弱を以て或人謂。余未嘗見閩東車体。故其論如此。曰  
 余則未見閩東。然天下見閩東事体者。率不簡于吾  
 所說。且又京都の事。東人未嘗到京  
 都者。雖不感于義理是非。亦察以不知事体。不得議  
 論。則學者不論遠近。不問古今。以明當然之理。為  
 無用之閑事也。其可乎。畢竟吾所論只何の曲折

多端あり。吾君又人を撃つ。其れを命を定む  
 以相争はぬけ。居るを臣子。其れの方の君父の  
 不測法あり。其れを忠臣義士と稱  
 する。其れは仕方の何の用。其れを平生君臣の吟  
 味。其れを悉舉。要以此  
 推して可なり。



忠士筆記終

附鳩巢與白石論土屋主稅處置



未穗義士款討の吉良上野介宅に押入りて先所居屋敷土屋  
 主税の吉田忠方御門方より使者を遣りて中より淺野内通の家  
 来りて主人の款討の旨只今吉良上野介殿宅に押入りて可成撥動  
 りの事不慮案内に入仕しおまの事と申す事多様あり討可成申  
 主税中より一の所より返りて申す事多様あり掃除の由一掃灯  
 ひ〜〜〜〜〜射をて掃〜掃〜掃〜〜〜の事  
 射の事〜〜〜〜〜其身ハ林凡子孫とを事済りて居りて  
 中より御の事と申す事多様あり申す事多様あり申す事多様あり















海師久世家之寵臣

湘雲瓚語附錄

祇園瑜 著

了海師ハ久世家ノ寵臣ナリ其家ト仕テ天下專殉死ニ  
當リ了海ノ久世家ノ死ニ必殉死ノ人ト世々トシテ水ヲ持シ  
其人ト必殉死トシテ一々幸ニ免悟トシテ一々以テ天下令ニ  
一々殉死ニ固ク其々一々死ニ以テ固ク了海殉死トシテ一々  
あつた後適世トテ居テ一々怒情ヲ強ク一々死ニ固ク一々  
淫夢ヲ割テ血ニテ淋漓トシテ止ラズ死ニ固ク一々了海心甚  
ト快美トシテ一々疼痛ヲ去リテ一々泣笑自若トシテ一々醫事トテ葉

甘雨亭藏書別集 湘雲瓚語附錄 一



を帖し血を止む其痛多しを以て因りて自ら光快  
しく傷くことの甚し其痛を止むに専ら爽快ありと平右の  
事と田中氏由に傳る田中氏因りて語了曰玄光和尚云世に  
まはしく陽道を刃をさすもの間あり世に其難を以て其人愁  
を致すこと果敢ありと極を大に記す佛道を来れは怪  
異の行ハ大に禁むことあり且陽道を割ると其の必險惡  
少くありて甚しき易くは其欲を成んとすて却て惡心  
を成り其甚しき事あり中華閣官古来より惡人多し是  
を成りて其行はしくは神の言ありと是れ也

世の陽道を割く事少くは法を以て其を成りて其苦人  
益あり近世の俗は少く用くはなす割く事ありて予  
は少くは友松浦家伝ふ中華の閣官腐刑とす  
陽道を割く事少くは麻薬を傳く陰囊を切り破り丸を切  
りて其劍を以て傳く事ありて其陰  
茎自然に縮入りて其の出る其に凹ありて其  
事ありて其刑皆く其朝鮮の曲馬皆  
畢丸を以て法を以て其漢書の法に閣謂其精氣  
奮閉不通とす其勢を切ると其今俗道割りと云ふ



























あゝけ冒姓を犯すもやけ服を祖来肯んぞむさう  
大學誠意の教ハ善悪の人鬼関あり然るも不善妄念と  
誠を以てハさすむも是面白くもなすも妄想を以て  
いふもろくも何あるも愚痴のふもやとくハ悪をすれ  
このきこくも又くもいひつけ其人の形容も忠像一  
其情の委曲を思ふも涙を流し教曲も改して面白く  
或ハ富貴を以て榮耀を誇り終つてくハ日夜妄想念ハ相  
續く美華矜奢を以て赤くも初一念のくもくハ心を割  
くもくハ除くハ謙素ありて却てくハ水を面白く思ひ飛  
くもくハ忠像も解るくも水を之ハ解令不善くも竹のり念  
解のけいもくハ目もくもきひちんもくもあもくも妄想定慮も  
苦くも面白くもくハのくもくも思もくも人のえもくも我志けい  
了ハ解もくも面白くもすけくもかゆもくもあもくもくハ  
一もくもくも妄想もくもくハのくもくも人をくもくハ可  
祝秋秋の秋ハあもくもくハ唯寄贈志願のくもくもくも  
くもくもくも表傷恋慕もくもくハ思もくも思もくも情をくもくハ吟我  
鍛鍊餘力を送るくハ四時風月もくもくハ山川羈旅もくもくハ  
唯表もくも面白くも宛莫悲哀の情をきくもくもくハ彼



忘き...の苦を棄て...  
世人妄心を...  
録雲亭雜言...  
不造遣煩惱妄想耳。曰塵不相緣。根無所偶。返流全  
一。六用不行。又曰。苦海無邊。回首是岸。

凡人の世に居る苦悩ハ十...  
天の風を晦ニ...  
惟ハ畢竟苦の世界...  
解脱をんハ道佛の...  
受用と...  
佛及び道...  
言の道...  
仙人

解脱をんハ道佛の...  
受用と...  
佛及び道...  
言の道...  
仙人  
を安樂地...  
仙佛...  
佛...  
樂土。道家忘苦悩而遊樂地。惟聖人ハ順承苦樂。以盡  
我道。獨...  
後天命也耳矣



湘雲瓚語附錄終

*(Faint vertical text in columns)*

安中造士館藏板

安政三丙辰六月

京都 勝村治右衛門

大坂 河内屋喜兵衛

江戸 山城屋佐兵衛



早稲田大学図書館

011888006461